

2019. 7. 27

畑 啓之

兵庫県加古川市の宗佐遺跡見学会に行く 約2500年前からの息吹あり

午前中は台風の影響もあり雨が降っていて、午後1時30分からの説明会がどのようなコンディションで行われるか心配であったが、午後になると時折太陽も雲間から覗き、熱くもなく寒くもなく、まずまずの見学日和となった。

本日の見学会は次ページに示す新聞記事にて告知された。

また、この遺跡の発掘状況は、7月19日のブログ

<http://www.alchemist.jp/Blog/190719.pdf>

に示したように、神戸新聞により定期的に報じられた。



竪穴住居跡は14棟

宗佐遺跡 水路も新たに

加古川

県教育委員会は25日、東播磨道の延伸工事に伴い発掘中の宗佐遺跡（加古川市八幡町宗佐）で、弥生時代後期～古墳時代初頭（約1800年前）の竪穴住居跡2棟と、水路とみられる溝が見つかったと発表した。同遺跡の調査は本年度が最終となり、3年間で同時期の住居跡を計14棟確認。い

なみ野台地のすそに、まとまった集落があったことが分かった。遺跡は2017年に発見され、3年間で約1万平方メートルを発掘。本年度は、うち3300平方メートルを4～8月に調査している。

弥生後期～古墳初頭の住居跡は、直径約7メートルの円形と、約5メートル×約4メートルの長方形のそれぞれ一部。付近からは溝や、タコつぼなどの

土器も見つかり、調査担当者らは「台地上の森や集落近くの水源、少し離れた海など、自然の恩恵を受けながら生活していた様子がうかがえる」と話した。

また、平安時代後期～鎌倉時代の遺構からは、木棺墓や火葬跡、鍛冶遺構がそれぞれ1基見つかり、ふいこの一部も残っていた。戦



国時代の洪水跡もあり、前年度までの調査と合わせると、土砂が南北60メートル以上に広がる大規模な洪水だったとみられる。付近の谷川が溢水した可能性があるという。現地説明会は27日午後1



新たに見つかった約1800年前の円形住居跡（手前）
加古川市八幡町宗佐

時半～3時。県立考古博物館（播磨町大中1）でライブ中継もある。現地事務所
079・438・322
2
（広岡磨璃）

宗佐遺跡（E地区）発掘調査の成果

事業名：東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）
道路改築事業

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
埋蔵文化財調査部

調査期間：平成31年4月9日～令和元年8月8日（予定）

調査面積：約3,300㎡

兵庫県教育委員会

（公財）兵庫県まち

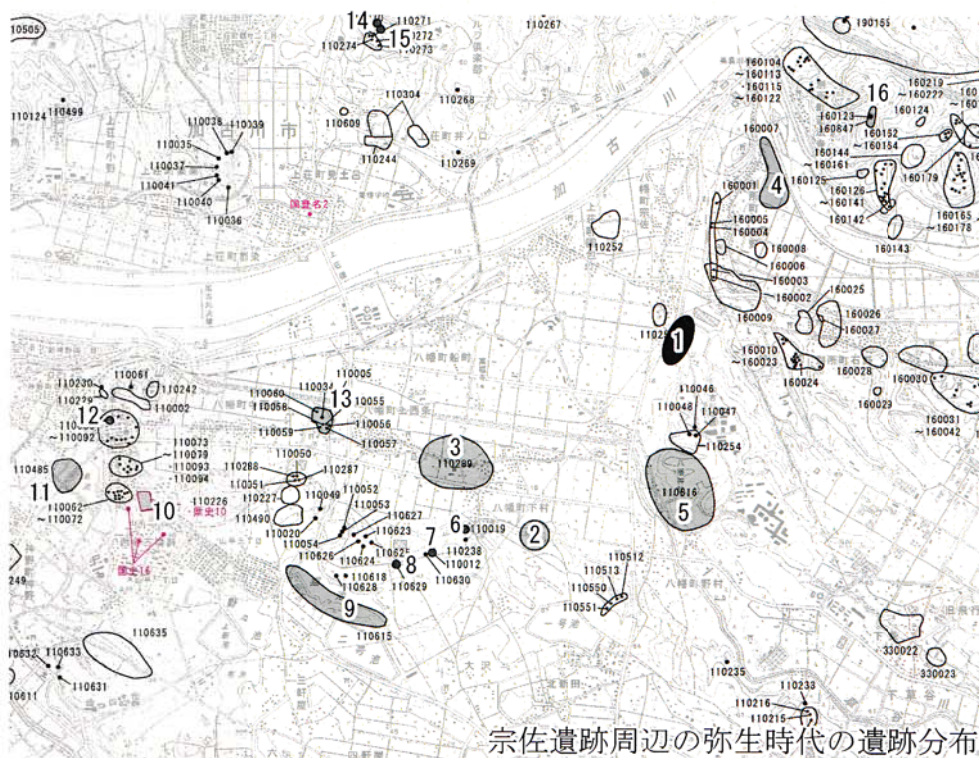


づくり技術センター埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町1-1-1

（兵庫県立考古博物館内）

URL: <http://www.hyogo.ctc.or.jp>



- 1：宗佐遺跡（集落跡）
- 2：片山遺跡（集落跡）
- 3：下村遺跡（集落跡）
- 4：下石野高田散布地（散布地）
- 5：野村遺跡（集落跡）
- 6：大日山遺跡（墓）
- 7：望塚（銅鐸出土地）
- 8：東沢中遺跡（集落跡）
- 9：猫池遺跡（散布地）
- 10：西条廃寺下層遺跡（集落跡）
- 11：神野遺跡（集落跡）
- 12：西条52号墓
- 13：宮山遺跡（集落跡）
- 14：八ツ塚3号墳
- 15：八ツ塚4号墳
- 16：正法寺銅剣出土推定地

※『兵庫県遺跡地図（2011年度版）』
（図幅85）を基に作成。

宗佐遺跡（E地区）は、印南野台地（いなみのだいち）西側の開析谷に形成された扇状地上に立地しています。平成29年度から実施してきた本事業に伴う宗佐遺跡の最後の発掘調査となります。今回の調査の結果、次のことが明らかとなりました。

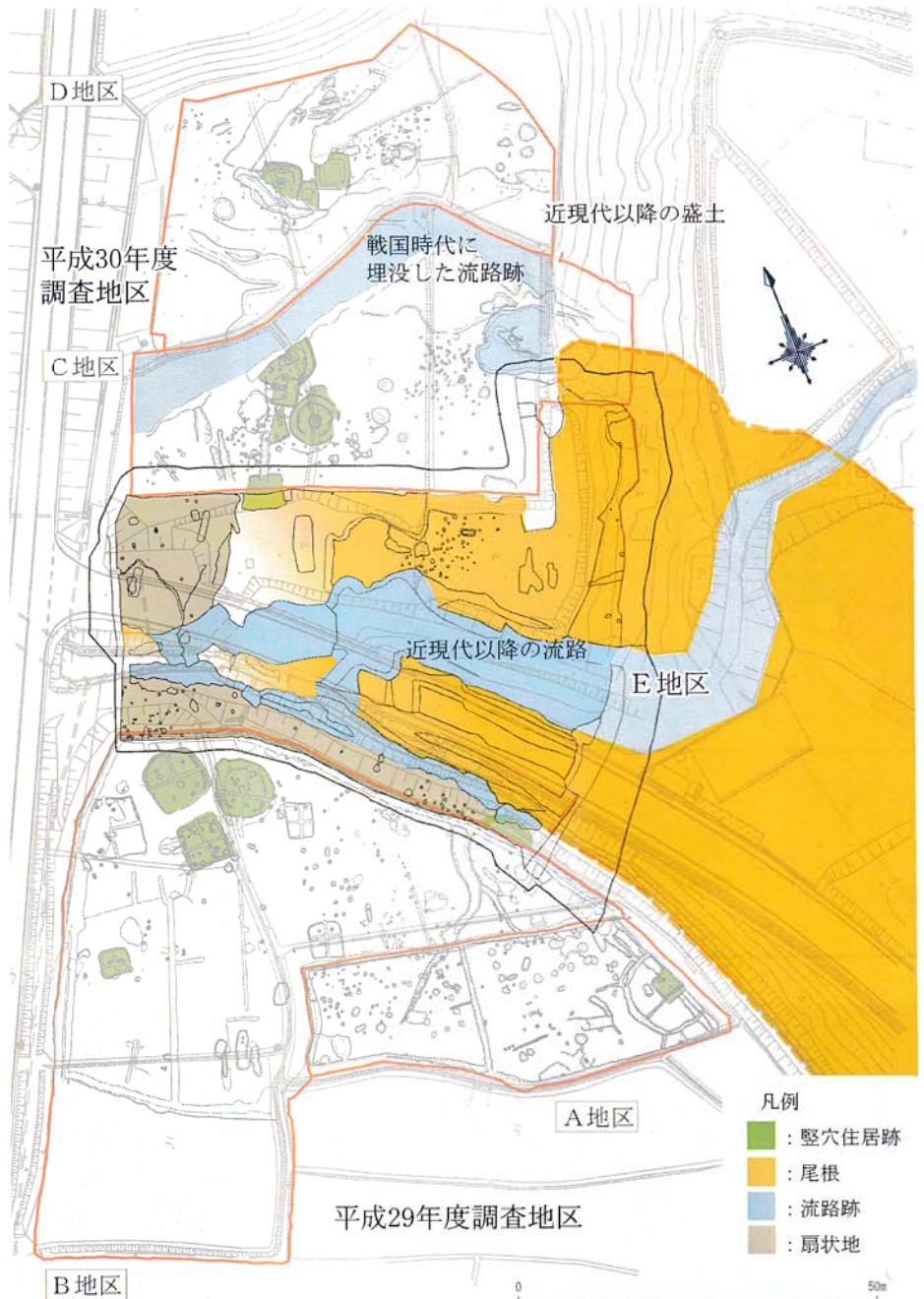
【弥生時代後期～古墳時代初頭（約1800年前）】

- ① 竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）2棟と溝が見つかりました。
- ② 竪穴住居跡の1棟は、昨年度の調査（C地区）で確認した一辺約4mの平面方形の住居に続くものです。もう1棟は調査区南東部で今回新たに見つかった直径約7mの平面円形の住居です。昨年度までの調査成果を合わせると合計14棟の竪穴住居跡が見つかったことになります。
- ③ 溝からは多数の土器が出土しました。

【平安時代後期～鎌倉時代（約1000～800年前）】

- ① 木棺墓1基、火葬跡1基、鍛冶遺構1基、および多数の柱跡が見つかりました。

- ② 木棺墓は、平面隅丸長方形の穴（長さ約 2.1m、幅約 0.9m）の中に棺の痕跡（長さ約 1.7m、幅約 0.5m、深さ約 10 cm）が見つかりました。
- ③ 火葬跡としては、焼土（壁）が崩れて埋まった穴（長さ約 4m、幅約 1.5m）と炭が詰まった穴（長さ約 2.3m、幅約 1m、深さ約 7 cm）が重なって見つかりました。
- ④ 鍛冶遺構は、地面に火熱を受けた炉床 1 基（長さ約 0.6m、幅約 0.5m、深さ約 5 cm）があり、炉に空気を送るためのフイゴの羽口（はぐち）や作業時にできた不純物の鉄滓（てっさい）が出土しました。
- ⑤ 柱跡は多数見つかり、3 棟以上の掘立柱建物跡が復元できます。



【戦国時代（約 500 年前）】

- ① 戦国時代に発生した洪水

は、約 0.7 ～ 0.5m の厚さで今回の調査区西側を覆っていることが分かりました。

- ② 昨年度までの調査成果を含めると、調査区西側で南北約 60m 以上の範囲に洪水による土砂が広がっており、大規模なものであることが分かりました。

【まとめ】

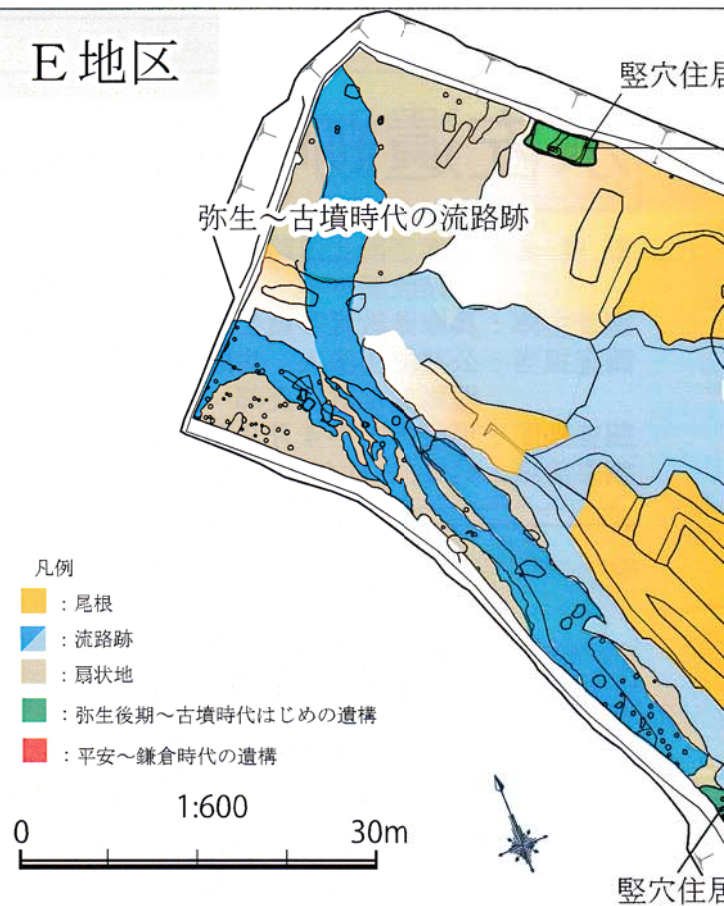
- ① 弥生時代後期～古墳時代初頭には、微高地に複数の竪穴住居が継続的に営まれる集落であることが明らかになりました。
- ② 平安時代後期～鎌倉時代には、住居や鍛冶、火葬場、墓といった多様な土地の利用がなされている集落の様子が明らかになりました。
- ③ 戦国時代に発生した洪水は広範囲に及ぶ大規模なものであったことが明らかになりました。

【宗佐遺跡の第 1 遺構面と竪穴住居跡の位置図】

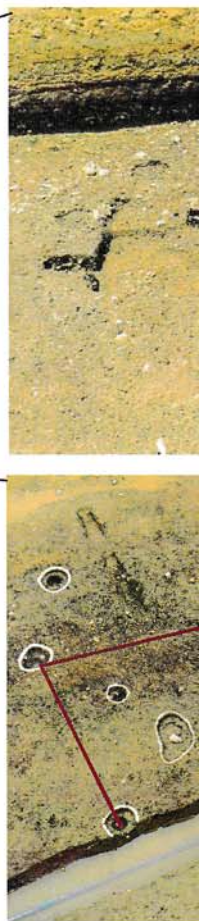
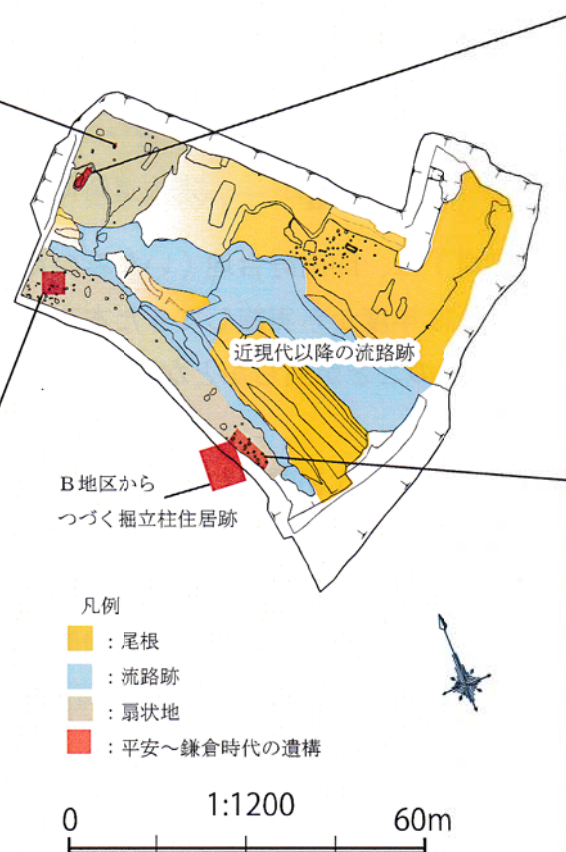
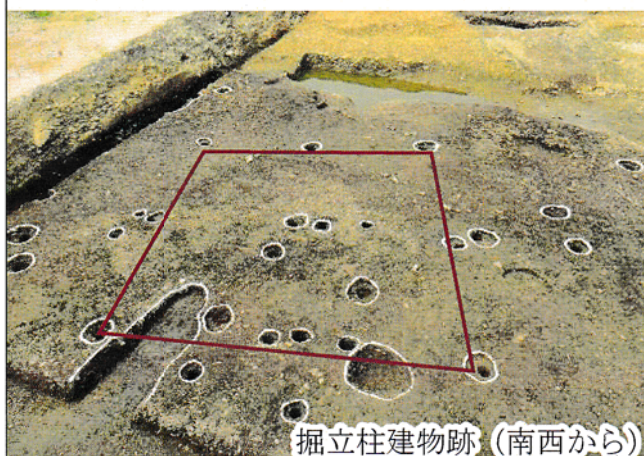
第2遺構面



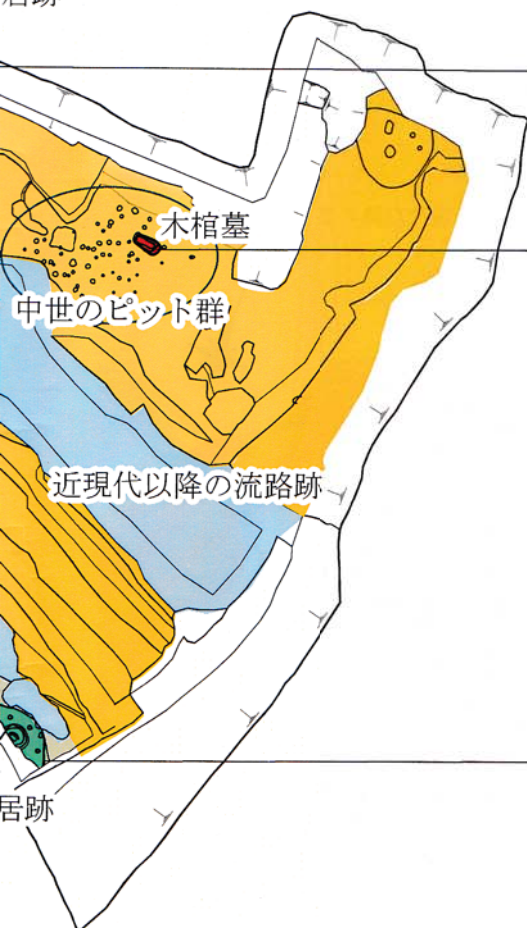
E地区



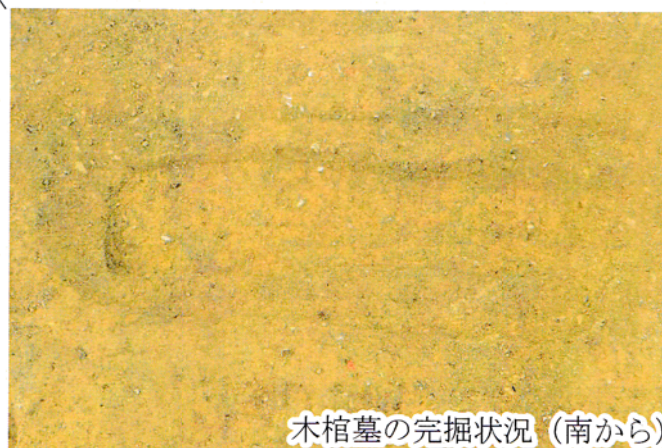
第1遺構面



居跡



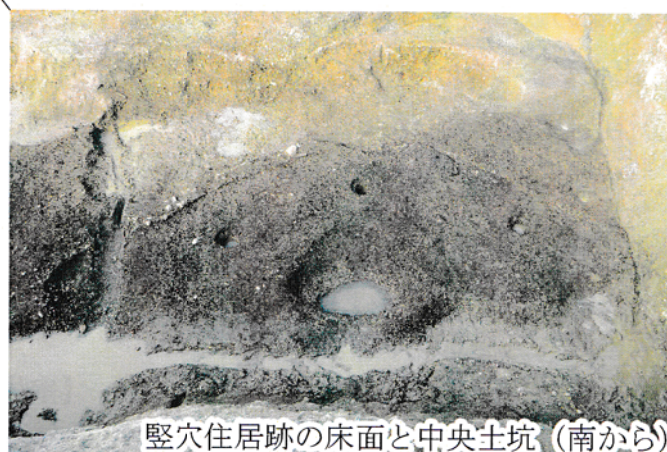
竪穴住居跡の床面の様相（北から）



木棺墓の完掘状況（南から）



火葬跡（東から）



竪穴住居跡の床面と中央土坑（南から）



掘立柱建物跡（南西から）



壁面にみられる戦国時代の洪水砂（東から）

























